

2015年度学院留学 研究成果概要

種 別：学院留学（長期）
所属・職・氏名：国際学部・教授・長谷 尚弥
研究課題：アメリカバイリンガル教育の日本の英語教育への応用
留学期間：2015年8月22日～2016年8月21日
留学先： アメリカ合衆国ニューヨーク市
 コロンビア大学ティーチャーズカレッジ

研究成果概要

アメリカのバイリンガル教育を通して日本の英語教育を見直す

2015年8月より1年間在外研究の機会を得て、アメリカニューヨークにあるコロンビア大学ティーチャーズカレッジでバイリンガル教育について学び、またニューヨーク市内にあるバイリンガルスクールを視察する機会にも恵まれた。アメリカのバイリンガル教育とはヨーロッパのバイリンガル教育や日本で抱くイメージとは大きく異なり、英語が出来ない、あるいは英語力が十分ではない移民、或いは移民の子ども達を対象とした言語教育であり、アメリカのバイリンガル教育を表すキーワードは「social justice（社会正義）」「equity（公平性）」「diversity（多様性）」である。この経験を通して、状況はかなり異なるものの、アメリカのバイリンガル教育が大切にしていることで日本の英語教育にも当てはまると思われることを3点考えてみた。

1. 言語や言語教育の持つ社会政治的な意味

まずはじめに、言語、あるいは言語教育の持つ社会政治的な意味（sociopolitical meaning）を考えることが重要であるという点である。この場合の political とは connected with power、そして sociopolitical とは connected with power in society（社会において言語の持つ力関係）という意味になるかと思う。言語によっては社会において強大な力を持つものもあれば、逆にそうではない言語もある。そして、強大な力を持つ言語の陰には、弱い言語、そしてそれを話す人々が存在する。アメリカにおけるバイリンガル教育とは、上述の通り、少数派言語を母語とする子ども達をいかにして主流言語の中に埋没させることなしに二言語話者として育てていくかという点を重視する。そのためには、社会における言語と力の関係を意識することが重要になるわけである。

分かりやすく英語を例にとるが、現在の世界においては英語は圧倒的な社会政治力を持っているので、それを扱うことは、そしてそれを教えることは、意識無意識は別にして学習者にどういうことを教えているのか、ということである。日本では英語を話すというのはプラスに考えられているが、広い世界を見ると必ずしもそうではない。世界には英語に対して、あるいは英語を話す人に対して様々な思いを抱く人たちがいる。圧倒的な力を持つ英語を歓迎する人もいればそうではない人もいる。もちろん、英語に限ったことではない。どの言語も社会的な力から解放されているということではないが、特に英語のような圧倒的な力を持つ言語を教え、また、学ぶについては、それが持ちうる社会政治的意味合いに対する配慮が必要になる、場合によってはクリティカルな視点を持つことが重要になると考える。アメリカのバイリンガル教

育においては、いかにして少数派言語に対してセンシティブな形で言語教育を行うかが大切に考えられている。英語という **power language** を扱う以上、私たちも同じような配慮が必要なのではないかと思う。

2. 多言語多文化主義の考え方

アメリカにおけるバイリンガル教育で重要なことは、言語少数派の子ども達の母語や母文化を大切にす視点である。ともすれば、社会の主流にあり強大な社会政治的な力をもった言語（英語）、そしてその文化に埋没しがちな状況にあつて、世界には様々な言語や文化が存在し、どの言語、文化も等しく価値があり、その間には優劣がないとする考え方がバイリンガル教育の根本にある。そういった視点は日本における英語教育を考える上でも重要だと、改めて考える。私たちが英語を教え、その背景にある英語文化を語る時、英語や英語文化が他の言語や文化よりも優れたものであるといったメッセージを無意識のうちに発信してしまっていないか。世界にはさまざまな言語や文化が存在し、それらはいずれも等しく重要で価値のあるものであるとする考え、多言語多文化主義の考え方を、他ならぬ英語教育に携わる私たちこそが持ち、それを生徒達に教えることが重要であるとする。

また、少し視点を変えれば、日本人英語学習者の中には英語に対して苦手意識を持つ人も多いと思うが、英語という言語を必要以上に美化するのではなく、相対化することが重要だと思う。英語だけを特別視するのではなく、英語は地球上に存在する数多くの言語の一つに過ぎないとする（開き直す）。そうすることで、日本人の英語学習者、生徒が英語に対して抱きがちな苦手意識、劣等意識を変え、自信を持たせ、より自然体で英語を学習することが出来るようになると思う。

3. 言語と密接に結びつく文化の意味

繰り返しになるが、アメリカのバイリンガル教育では、言語少数派の子ども達の母語や母文化を大切にす視点が重要になる。それは、ともすれば強大な力を持つヨーロッパからの移民を中心としたアメリカの主流文化に埋没してしまうことから少数派文化を背景とする子ども達を守るということが重要だと考えられているからである。これがアメリカ文化だ、これがアメリカの国民性だ、これがアメリカ人だ、そしてこれがアメリカの歴史だ、と一元的にまとめようとする傾向にあること、あるいはそういった力が働いていること、そしてその陰にはそういった力の犠牲になっている少数派の存在があるということを重要視するわけである。したがって、バイリンガル教育においては「文化 (culture)」がキーワードの一つになると思う。

同じことを日本人英語学習者が置かれている状況に当てはめることは出来ないが、それでも私たちが英語を教え、あるいは「文化」を語る時、言語や言語教育とは切っても切れない関係にある文化の持つ意味を改めて考えることは重要であるとする。

私たちはよく、「日本文化」、「アメリカ文化」といった言い方をするが、果たして「文化」とはそのようにひとまとめにして考えられるものか。「文化」、特にそれが言語教育と結びついた場合、「文化」とはもっと個人的なものではないのか、と考える。「文化」とは個人の持つ経験や生活に根ざしたものではないのか、と思う。Nieto (1999)は、「文化」とはダイナミックで常に変化するものであり、それまでの個人の経験の中で形成されたものであり、多面的なものである等と言っている。私たちは、英語を指導する中で、英語圏文化、あるいは日本文化を反映した英語教育を行う向きもあるようだが、そういった場合何をもって「文化」と考えるのか、

「文化」とは本来はどういうものなのか、もう一度考えてみるということが重要ではないかと感じた。

以上3点、アメリカのバイリンガル教育を学ぶ中で、あらためて言語や言語教育について感じたことをまとめ、日本における英語教育にも通じると思われることをまとめてみた。グローバル人材育成が声高に叫ばれる中、あるいは小学校英語教育教科化を数年後に控え、英語教育はますます熱を帯びている感がある。そういった時代だからこそ、言語や言語教育、特に英語のような圧倒的な力をもった言語を扱う際に私たち英語教師が心がけておくべきことを確認することは意義深いと考える。

最後に、授業を聴講することを許可していただき、日本の英語教育をクリティカルに見直す貴重な機会を私に与えていただいたティーチャーズカレッジバイリンガルバイカルチュラルエデュケーションプログラムの Carmen 先生と Sharon 先生に感謝の意を表したい。

【参考文献】

- Bilingual/bicultural education program guide (2015-2016). New York, NY: Department of Arts & Humanities Teachers College, Columbia University
Diversity and Community. Retrieved August 1, 2016,
from <http://www.tc.columbia.edu/abouttc/diversity-and-community>
- Ebe, A. E. (2011). Culturally relevant texts and reading assessment for English language learners. *Reading Horizon: A Journal of Literacy and Language Arts*, 50(3), 169-192.
- Hidalgo, N. (1993). *Multicultural teacher introspection*. New York, NY: Routledge
- Moll, L. C. et al. (2005). Funds of Knowledge for teaching: Using a qualitative approach to connect homes and classrooms. In Moll, L. C., Amanti, C., & Gonzalez, N., *Funds of knowledge: Theorizing practices in households, communities, and classrooms*. Ch 4 (pp.71-86). Mahwah, NJ: LEA
- Nieto, S. (1999). *The light in their eyes: Creating multicultural learning communities*. Ch 3 (pp. 47-71). New York, NY: Teachers College Press
- Welcome to the Program of Bilingual/Bicultural Education. Retrieved August 1, 2016
from <http://www.tc.columbia.edu/arts-and-humanities/bilingual-bicultural-education/>
- Wright, W., Boun, S., & Garcia, O. (2015). *The handbook of bilingual and multilingual education*. Malden, MA: WILEY Blackwell